



HFHJ Newsletter

ハビタット・ジャパン ニュースレター

第22号 2011年7月発行

東北支援：災害支援ボランティア、岩手県で活動開始

東 日本大震災から4カ月。被災地では、行政、民間、そして被災者が多方面で手を取り合い、総力を挙げた復旧・復興活動が行われています。ハビタット・ジャパンでは、震災後の初動調査を経て、4月より支援活動を開始。多くのボランティアの皆さんと共に、岩手県大船渡市・陸前高田市で活動を行っています。ゴールデンウィーク以降、ボランティア熱の急速な低下が懸念される中、現地におけるボランティアニーズは依然として高い状態にあります。ハビタット・ジャパンでは継続的なボランティア派遣により、目下、津波によって水没した家や商店のがれき撤去や汚泥除去。また、公園や側溝など公共インフラの清掃作業など、主に重機が入りにくい場所での活動を行っています。(事務局)



床下の汚泥をスコップで除去

ボランティアチームは、6月に入り、被災家屋の清掃を開始。被災者（ホームオーナー）の方と一緒に、泥のかき出しや壁の解体、遺留品の仕分け作業などを行っています。今回、そのホームオーナーの一人である佐藤正治さんから話を伺いました。



被災した
佐藤正治さん(51)

佐藤さん宅

だけでよかったのだと思う」と、複雑な心境を語ってくれました。

来てもらって本当にありがたい

ボランティアは、佐藤さん宅で、一つ一つ釘を抜きながら床板をはがし、床下に入り込んだ厚さ10センチもの泥を掻き出していました。作業中、佐藤さんの思い出の品々も見つかり、全員の寡黙な表情が一転、笑顔でいっぱいになる場面も。その後、チーム一丸となって掻き出した床下すべてのヘドロは、土のう30袋分にもなりました。



汚泥除去後、床下が見違えるほどに

「来てもらって本当にありがたい」と佐藤さん。現実を見つめる厳しい表情の中にも今後への迷いはなく、参加者は、佐藤さんの生きていこうという強い気持ちに後押しされながら作業を行っていました。

長期的に活動、支援拡大も

ハビタット・ジャパンでは、ボランティア

東日本大震災
「災害対策支援室」を開設しました。

心を一つに、がんばろう 日本

Tel. (03) 5775-7438 (専用)
Fax. (03) 6447-0262 (専用)
E-mail. rebuildtoday@habitatjp.org (専用)

派遣を継続していくと共に、今後はさらに、家屋の修繕作業や、住まい、コミュニティの再建に必要な物資・用具・日用品セットの配布なども予定しています。ハビタットが世界各地で行っている災害支援の経験を生かしながら、日本独自の風習や文化にも沿うきめ細やかな支援を行っていきたいと考えています。

将来的には、住宅の問題についても、生活環境を改善し、仮設住宅地におけるコミュニティ支援も検討しています。

※「ボランティア体験談」は3面へ。
※今後のボランティア派遣や支援の詳細については、HPIにてお知らせします。



側溝の清掃活動を行うボランティア

3月11日、あのとき...

地震発生当時、勤務先の印刷会社で打合せ中だった佐藤さんは、会社前を通った消防車から津波の警報アナウンスを聞き、急いで外に。すると、松原（海側）の方角に白いもやが見えたそうです。それが津波であることに気づき、慌てて車に乗りこみ山へ避難。翌日になって、なんとか自宅に戻ったところ、家そのものは津波に流されず残っていましたが、家の中は足の踏み場がないほど物が散乱しており、その惨状に愕然としたそうです。それでも、「家がある



スリランカ事業：北部支援、急ピッチで住居建築中！東部は完了へ

北部マナー県：再定住支援、建築作業が本格化

北部ジャフナ県において、紛争帰還民の再定住支援に向け建築作業を開始しようとしていた矢先、スリランカ政府からの要望を受け、急きょ事業地を変更。ジャフナ県より約100km南のマナー県で支援活動を行うことになりました。一軒一軒を回りながら慎重に現地調査を重ねた結果、マナー県においても、国内避難民の帰還の動き、またそれに伴う住居(コアハウス)のニーズは高いことが分かりました。

建築サイトのニラセネ村では、目下、約20軒の住居建築を急ピッチで行っています。太陽が容赦なく照りつけ、海からの強風とともに砂埃も舞う過酷な建築条件の中、スタッフだけでなく、現地の大工や技師、業者らの尽力が作業進展の基盤となっています。

また、支援を受けるホームオーナーも、自分たちの家の建築作業に積極的に参加。時には、近所のホームオーナー同士で、土台部分の穴掘り作業を助け合う場面も。ホームオーナーの一人であるマイルバハナムさんは、「自分たちの家のことなのだから、この労働参加は当たり前。家族のために良い



北部：ホームオーナーも進んで参加、建築作業が進むニラセネ村



今年4月から、(特活)ジャパン・プラットフォームの助成を受けて実施している2つのスリランカ事業。北部では、内戦の終結によって故郷へ帰還する人々の再定住を住居建築で支援。東部では、今春、乾季に発生した豪雨や洪水によって家を失った人々を 住居修繕・シェルター建築で支援しています。(事務局・山本真太郎)

家を建てたい」と語ってくれました。

内戦が終わり、国内避難民の帰還も進んでいますが、現地では、ニラセネ村の住民も含め、その帰還が直ちにハッピーエンドと言える単純な状況にはありません。ハビタット・ジャパンは、一日でも早く帰還民の人々の生活回復と北部復興が実現するよう、長期的な支援を検討しています。

東部バティカロア県：水害支援、緊急対応終了へ

他方、1月から2月にかけて水害に見舞われた東部では、バティカロア県マンムナイ西区カタパンカーニー村で、住居修繕キットの配布を通じたシェルター支援を行っています。



東部：シェルターを前に笑顔の家

現在のところ、7月中旬には、ハビタット・ジャパンで予定する全てのキット配布(約1,000人への支援)が完了する見込みです。キットを活用した修繕やシェルター建築も進んでおり、今後は、支援フェーズが緊急から復旧段階へとシフトするのに合わせ、活動をハビタット・スリランカに引き継いでいきます。

ハビびと

三宅 孝 さん

ハビタット・ジャパン事務局 インターン

ハビタットが「自分を大きく成長させてくれました。」そう語るのは、4月からハビタット・ジャパン事務局でインターンを始めた同志社大学4年生の三宅孝さん。およそ150人が参加する同志社大学ハビタット学生団体の前代表であり、これまで、インドをはじめ海外住居建築活動(GV)に4回参加。二度、三度とGVに参加する中で、副リーダー、リーダーを経験し、多くのことを学んできた。

「メンバー全員がGVに全力で取り組んでいるので、その思いに応えたい。その一心で、メンバーを引っ張ってきた」と当時の思いを語ってくれた。リーダーを経験

する中で、相手の反応を事前に考えた上で物事を伝える姿勢が自然に身に着いたと言う。また、自分自身に足りないところをきちんと受け止め、素直に他のメンバーに頼るということも学べたと話す。「何が自分に求められているかが分かるようになり、リーダーシップの取り方を学ぶことで、成長できたと思う。」

振り返れば、「学生生活の3年間はハビタット漬けだった」と言う三宅さん。GVをはじめ、ハビタットでの様々な活動を通じてたくさんのことを得てきたものの、もっともっと学びたいという気持ちが尽きなかったと話す。その思いが今日に至り、現在、事務局インターンとして、主にハビタット・

ジャパンの学生団体が行う取り組みを側面から支えるユース・プログラムや東北復興支援プロジェクトに携わっている。

「これまでとは異なる立場からハビタットの活動に関わり、さらに多くのことを吸収していきたいですね。」現在、ハビタット・ジャパン学生団体の活動を、事務局側の視点も入れながら、どのように盛り上げていけるのか日々模索している。(事務局・樋口ゆり子)



東北支援：ボランティア活動レポート

一つ一つ広がる支援の輪

藤田オックスネール真由美さん・社会人

今回が初めてのボランティア活動であった藤田さん。現地では被災家屋や田んぼの清掃活動に参加した。「田んぼの作業で、お茶碗が出てきたり、家に飾られていたであろう卒業証書などが出てきて時は心が痛みました。」「泥にまみれた衣類を目にした時は、本当にここに人が住んでいたのだと実感し涙が出ました」と語ってくれた。そして活動後、「何かしたいという思いが、これほどまでに強く芽生えたことにも驚きました」という。この思いを家族に伝えた藤田さん。彼女の行動が弟を参加に動かし

藤田オックスネール
真由美さん

4月、東北支援の一環として、ボランティア参加を通じた被災者支援活動を開始しました。何か特別なことができるわけではない。でも、被災された方々のために、東北のために、何かしたいと、多くの社会人や大学生が支援活動に参加しています。ここでは、強い思いや不安を胸に、現場へ赴いた2名のボランティア活動体験談を紹介します。(事務局)

た。近々、お父さんも参加を考えているという。支援の輪が一つ一つ広がっている。

少しでも被災者を支えになれば...

江崎良太さん・大学生

関西在住の江崎さん。出発前夜に夜行バスで東京入りしたが、

その疲れをものともせず、支援に対する強い想いで現地に向けて出発した。現場では、被災した民泊の清掃と私財の搬出作業に参加。「家が津波で流されてしまっても、今後どうしていくべきかを前向きに考え、行動している被災者の皆さんに感銘を受けました」と話す。1泊4日という強行日程ではあったものの、「ほんの少しでも



清掃作業を行う江崎良太さん(写真右)

被災者の方の支えになれば」との思いから、とても充実した様子で活動に取り組んでいた江崎さん。「今回の参加は、自分自身の将来に影響するほど貴重な経験でした」と語ってくれた。現在、ハビタットの9つの学生団体を取りまとめ、7月9-10日に全国各地で東北支援のための街頭募金活動を計画している。

東西の学生団体、イベント参加でハビタットをPR

<関西イベント>

5月15日、ハビタットの学生団体の活動が活発な京都外国語大学にて、国際協力に取り組む約20の学内団体による新入生と高校生を対象にした合同説明会「縁-en-」が開催されました。関西で活動するハビタット・ジャパンの7つの学生団体(JCC関西: Japan Campus Chapter関西)もハビタットの活動を関西の学生に広めるため、合同ブースを出展。世界の貧困住居問題やハビタットが海外で取り組む住居建築活動(GV)の紹介を行いました。

当日は、写真をたくさん用いるなど、ハビタットの活動を一人でも多くの学生に知ってもらい、興味を持ってもらえるように、ブースの見せ方を工夫しました。その結果、277名もの学生が訪問、「ハビタットの活動に興味を持ちました!」「ハビタット・ジャパンの学生団体として活動したいです!」といったうれしい感想が聞こえてきました。これからもハビタットの活動を伝えるために、JCC関西として、積極的に活動を展開していきたいと思えます。(関西学院大学CClub・喜多新)



<関東イベント>

6月4日、関東で活動するハビタット・ジャパンの7つの学生団体(JCC関東: Japan Campus Chapter関東)が、新一年生向けの合同交流会をJICA地球ひろば(東京都渋谷区)で開催しました。この交流会は、JCC関東が今年初めて取り入れた新企画で、団体間の交流・連携強化を目的の一つとして、数カ月間にわたり準備を行い実現させました。その甲斐もあり、初めての試みではありましたが、各大学から100名にのぼる新一年生が集まりました。

当日は、プレゼンや映像を用いて世界の貧困住居問題を知ってもらい、海外住居建築活動(GV)に参加する意義や楽しさを理解してもらえるよう内容を構成。加えて、GVを体感してもらうため、チームに分かれてGVスゴロクゲームを実施しました。このゲーム、スゴロクを使って、GVのチーム作りから、支援国の決定、現地活動までの一連の流れをシミュレーションするもの。終了後には、「家とは人間が一日の生活を始め、終わるところ」や、「貧困とは将来の選択肢を持ってないこと」などゲームを通じて気づいた点を発表し合いました。

4時間にわたる交流会、盛りだくさんの企画内容は、新一年生にとって、ハビタットの活動を楽しみながら知る絶好の機会となりました。(事務局)





海外建築ボランティア 個人参加者募集中！

With 地球の歩き方

2011年夏も引き続き、「地球の歩き方」とハビタットが共同で一般募集チーム「Japan Hope Builders」を結成。参加ボランティアの募集を開始しました！今夏は、大好評に応え、タイ(バンコク郊外)での活動に加え、新しくバングラデシュ(ダッカ郊外)にもチームを派遣。参加者は、貧困や災害で苦しむ現地の家族のために、その家族と一緒に汗を流しながら家を建てていきます。異文化に触れながら、家を建て、世界の現状を学ぶ、そんな国際協力にあなたも参加してみませんか？(事務局)

◆ タイ出発日程



- ① 8月23日(火)～8月30日(火) (バンコク郊外)
② 8月30日(火)～9月6日(火) (バンコク郊外)

ここがポイント！！ 住居建築活動を行う以外に、現地の孤児院、幼稚園または小学校を訪問。異文化交流を行います。他にも、過去に建てた家(ハビタットハウス)への訪問や、現地文化に触れる市内観光を予定しています。

◆ バングラデシュ出発日程



- ③ 9月7日(水)～9月14日(水) (ダッカ郊外)

ここがポイント！！ 世界最貧国での住居建築活動と、現地NGOやグラミン銀行への訪問を予定。世界の現状を学びます。また孤児院への訪問も予定。異文化交流を行います。

編集後記

3月11日の東日本大震災発生以来、ハビタット・ジャパンでは、これまで世界の貧困住居問題の解決に向けて実施してきた活動と並行しながら、「心をついに、がんばろう日本」を合言葉に、東北における被災者支援活動「東北復興支援プロジェクト」に全力を注いでおります。支援を通じて現地で出会った被災者の方々からは感謝の手紙をいただく一方で、4カ月が経過した現在も、まだまだ先の見えない状況が続いています。今こそ、「心をついに」、世界でそして日本で、「誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」の実現を目指し、役職員一同、努力して参ります。皆さまの温かいご理解とご協力をよろしくお願いいたします。(事務局)

寄付・助成金リスト (2011.4.1-6.30)

みなさまの温かいご支援ありがとうございました。(敬称略・順不同)

4/01	曙地 里美	10,000
4/04	大山 舞	2,000
4/05	田部井 彩子	5,000
4/07	饗場 和彦	8,000
4/11	岡村 匠	10,000
4/12	勝原 万理	13,230
4/12	福沢 雅子	10,000
4/13	関西学院大学 (上ヶ原ハビタット)	289,165
4/13	早稲田大学 (WHABITAT)	286,704
4/15	(特活)国際協力NGOセンター	202,514
4/18	前田 智之	10,000
4/19	山上 義明	5,000
4/25	早稲田大学 (WHABITAT)	109,971
4/28	Watanabe, Minori (米国)	34,516
5/06	Oakwood Korea	25,007
5/09	ブライアン ランドバーグ	10,000
5/09	皆川 智子	10,000
5/09	イエズス会	50,000
5/13	関西学院大学 (上ヶ原ハビタット)	80,154
5/18	鶴 雄亮	1,000
5/18	神戸市外国語大学 (Kobe Gaidai Habitat)	26,794
5/18	Black Orchid Event	7,032
5/18	同志社大学 (Doshisha Habitat)	36,298
5/18	Osaka International School	150,000
5/24	カレン リー	57,260
5/25	早稲田大学 (WHABITAT)	10,395
5/31	(特活)国際協力NGOセンター	1,071,936
6/06	関西学院大学 (上ヶ原ハビタット)	44,536
6/06	京都外国語大学 (Kyoto Gaidai Habitat)	37,800
6/07	ジョンストン テリー	15,000
6/09	井田 昌彦	20,000
6/09	鶴 雄亮	1,000
6/16	Fukuoka International School	71,252
6/20	スタンダードチャータード銀行	4,184,568
6/20	同志社大学 (Doshisha Habitat)	52,303
6/22	春蔭プロジェクト(株)	100,000
6/23	Friends of Mimi and Mike	55,146
6/30	麻生ラファージュメント(株)社員有志	506,559



ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパンは住宅を建てることでコミュニティを築く自立支援型NGOとして、これまで、人種、宗教、国籍に関係なく100の国と地域で40万軒余の住宅建築支援を行ってきました。そして現在、世界中で21分に1軒のペースで住宅を建てています。

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷1-13-11 CHARI千駄ヶ谷4F
Tel: 03-6459-2070 / Fax: 03-6459-2071
URL: www.habitatjp.org / Email: info@habitatjp.org

発行人: 小田 浩
編集人: 山崎頭太郎、高橋範子、山本真太郎、樋口ゆり子

